

□■受験対策ミニ講座 17号 2022□■（養成所ニュースプラス 23号）

新しい年が始まりました。寒さは一段と厳しくなり、同時にオミクロン株の感染が広がっています。今までどおりの対策を改めて徹底しましょう。新年ならではのイベントもあると思いますが、勉強時間の確保は毎日続けていきましょう。あと1か月です。

さて、受験対策ミニ講座もギアチェンジです。■Plus Column で、直前の準備についてお伝えしていきます。今回は「心理学理論と心理的支援」から記憶についての出題です。選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかも、あわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【31回10】記憶に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 手続き記憶とは、覚えた数個の数字を逆唱するとき用いられる記憶である。
2. 感覚記憶とは、自転車に乗ったり楽器を演奏したりするときの技能に関する記憶である。
3. 展望的記憶とは、「いつ」、「どこで」、「何をしたか」というような、個人の経験に関する記憶である。
4. エピソード記憶とは、「明日の3時に友人と会う」というような、将来の予定や約束に関する記憶である。
5. 意味記憶とは、「日本の都道府県数は47である」というような、一般的な知識に関する記憶である。

解説と正答は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(32期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・(33期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類を発行するには、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」、「スクーリング代替授業の履修」、「授業料の納入」が必須となります。
- ・レポート評価票の課題及び課題番号の記入について、未記入や番号違いに注意してください。
また、必ずレポート評価票と原稿用紙はホチキスで留めてください。
- ・レポート評価票の科目と原稿用紙の科目の付け間違いに注意してください。
受付できない場合があります。
- ・レポート提出は、郵便事故や封筒の破損を避けるため、極力、郵便局窓口からの提出を推奨しています。
また、必ずコピー（控え）をとってください。
- ・参考文献及び引用文献の記入について、文献（URL）名のみ等、情報が不足しているレポートが散見されます。
受講の手引き P18-19 の「(3) 文章作法とルール」や、P22-24 の「(5) 参考文献・引用文献の表記方法」を確認のうえ必要事項をすべて記入してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第34回国家試験の試験日は、令和4年2月6日（日）です。
試験概要はこちら→<http://www.sssc.or.jp/shakai/gaiyou.html>
 - ・社会福祉振興・試験センターより、新型コロナウイルス感染症対策に関する国家試験当日の注意事項や、対応について情報公開がありました。
詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?p=5878>
 - ・中央法規より「2021年度社会福祉士国家試験中央法規全国模試（在宅受験）」のご案内です。
- ※入金締切日を過ぎているため、自己採点扱いとなります。
詳しくはこちら→<https://www.chuohoki.co.jp/seminar/social/2969438.html>

・本養成所主催の「受験対策講座」を web にて開催しております。

受験対策ガイダンス動画、オンデマンド動画（全 19 科目）の視聴が可能です。また、12 月 25 日（土）より、国家試験直前対策講座（有料）の講義動画の視聴が開始となっています。是非ご活用ください。

受験対策講座ページへのアクセスはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=5529

※国家試験直前対策講座（有料）については、受講確定者に対してご案内（受講確定通知）を郵便及びメールにて送付しています。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Plus Column

【時間配分は綿密に！】

得意・不得意の科目があるため、時間配分はひとりひとり異なります。「受験の手引」を開いて、試験当日の全体を把握し、何時ごろにどのあたりの問題を解いていけば良いのか午前・午後に分けてご自身の時間配分を書き出してみてください。当日は予定どおりにいかないこともあるでしょうが、だいたいの目安をもっておくことが肝心です。

1 問にかけることができる時間は 1 分 30 秒程度です。見直しの時間を確保するには、少しでも短い時間で回答していく感覚を体験することが必要です。「携帯電話のタイマー機能を使って練習した」という体験談がありました。試験当日の注意事項には、端末機能、通信機能、辞書機能がない腕時計又は懐中時計とありますので、当日持参する時計で慣れておくのも良いと思います。過去問は繰り返していくうちに問題文を覚えてしまうこともあるので、この時期は、受験した模擬試験の問題や、まだ手を付けていない問題集などを活用することをおすすめします。

もうひとつ、先輩方の体験談から。回答に迷ってしまったときには、とりあえずマークシートのどこかを塗りつぶして次に進むこと。これで、マークシートの回答がずれてしまうことを防ぐことができます。そして、問題用紙の問題番号に大きく「迷った印」をつけておくことです。見直しをするときの目印になります。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【Plus Quiz 解説と正答】

記憶の過程を理解して勉強を進めると合点がいくことがあります。記憶は（1）情報を覚えるという記銘（符号化）、（2）記銘された情報を蓄え続ける保持（貯蔵）、（3）保持された情報を検索して引き出す想起（検索）の 3 つの過程で表されます。やみくもに記憶しようとするのではなくて、理解していきましょうと伝えてきたのは、インプット（記銘）の段階で言葉の意味を理解しておく、後の記憶の維持につながりやすいからです。

試験では、記憶の過程とともに記憶の種類も出題されます。記憶の種類は、保持時間や内容によって分類されます。

保持時間による分類には、「感覚記憶」、「短期記憶」、「長期記憶」があります。数秒から数分の記憶である「短期記憶」から「リハーサル」を行うことで「長期記憶」に転送されるといわれています。試験勉強で、図表で整理したり、自分の言葉で要点をまとめたり、解説のアンダーラインの部分に関連する言葉を書き込んだり、イラストを描いたりすることでも「リハーサル」にあたります。

内容による分類は、言葉として内容を表現できる「エピソード記憶」や「意味記憶」、言葉では内容を表現することが難しい「手続き記憶」などに分けられます。中央法規のテキスト「心理学理論と心理的支援」第 5 章第 2 節では、事例を挙げながらわかりやすく書かれています。

この時期は、皆さんが理解してきた情報の貯蔵庫からアウトプット（想起）することを増やしていきます。やったこと

のない過去問題や模擬問題、一問一答問題を解いたり、仕事や暮らしの中で勉強した言葉を使って説明したり「想起」をたくさんして記憶に残していきましょう。

1. ×手続き記憶ではなく、ワーキングメモリー（作動記憶）の説明です。手続き記憶は、長期記憶の一種で、動作や技能、ノウハウの保持等、いわゆる体で覚える記憶のことです。例えば、練習をしてピアノの弾き方を覚えたり、小学生で覚えた一輪車の乗り方を、高校生になっても覚えていたなどがあげられます。

覚えた数個の数字を逆唱するときの記憶は「作動（作業）記憶」（ワーキングメモリー）で、情報の短期間保持（例＝数列の保持）と情報の処理（例＝逆からたどる）を同時に行うものです。

2. ×感覚記憶は、花を見て「きれいだなあ」匂いを嗅いで「いい香りだな」など、視覚や嗅覚等の刺激を感覚器官が受け取った情報を、そのままの形で数秒程度保持する記憶のことです。

3. ×展望的記憶は、将来の予定や約束に関する記憶のことです。選択肢4の内容がこれにあたります。「いつ」、「どこで」、「何をしたか」というような、個人の経験に関する記憶は、エピソード記憶です。

4. ×エピソード記憶ではなく、展望的記憶の説明です。

5. ○意味記憶は、その保持内容を言葉で説明することができるという特徴をもっています。事物の意味や概念など、知識としての記憶のことです。

※この問題の選択肢は、語句を入れ替えるパターンともいえます。「意味記憶」の理解があいまいな場合は、消去法で解いてみましょう。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus